リサイクル部品は、すべて「保証」されています。

一般社団法人 日本自動車リサイクル部品協議会

http://www.japra.gr.jp　http://www.gpc.ne.jp

ご存知ですか?
使うだけでエコになる部品があること。
それが「リサイクル部品」です。

自動車リサイクル部品の供給で地球温暖化防止に貢献する
Green Point Club

Green Point Club
部友会　シーライオンズクラブ　トータルカーリサイクル(TCR)グループ　ジャパンエコネット会　NGP日本自動車リサイクル事業協同組合　SPNクラブ　一般社団法人日本トラックリファインパーツ協会
㈱システムオートパーツ　自動車補修部品研究会　日本パーツ協会　テクルスネットワーク　リビルド工業会全国連合会　一般社団法人ARN　(株)ビッグウェーブ　(株)エコライン

リサイクル部品業界団体首脳インタビュー

ビッグウェーブ　服部　厚司社長

3団体相互流通を拡大

「えこくるエンジン」積極ＰＲ

①部品生産は、使用済み車両の減少により生産数は減少すると思われるが、1台1台の車両からの生産点数を増加させ、きめ細かい部品生産をする。リサイクル部品の売り上げは、今後緩やかに減少すると思われる。新しいアイテム、ビッグウェーブオリジナルエンジンの「えこくるエンジン」を展開し、加盟店の販売拡大につなげる。

②現状の取引を見直し、企業間取引の拡大及び新規での取引を開始する。それと平行して個人向け販売にも注力をしていく。現状3団体での相互流通が大変順調に推移しているので、この相互流通のさらなる拡大を目指して取り組んでいく。本部にて本年度より開始したビッグウェーブオリジナルエンジン「えこくるエンジン」の積極的なPRをして拡販に努めていく。現在順調に販売実績は伸びている。

③現状の損害保険会社及び取引企業からの情報を確実に展開する。新しいパートナーとして損害保険会社、自動車販売会社などと取引を開始して、加盟店に情報提供を行う。

④JAPRAが保証期間、品目などの延長追加に伴い、今のところ年内に組織内での対応を決定し対応していく。同じシステムを使用するエコラインとも協議しながら対応する。

⑤現在販売台数が急激に膨らみ、今後リサイクル業界に入庫するであろうハイブリッド車や電気自動車など環境対応車両のEFVからマテリアルをリサイクルする必要がある。そのためには各種情報をメーカーが開示して、われわれリサイクル業界とともに取り組んでもらいたい。

⑥本年9月から新しくなった、「RDS（リパーツダイレクト）」が好評のため、取引企業各社にRDSの展開をしている。エンドユーザーに関しては、本年より取り組んでいるプロトコーポレーションのグーパーツでの出品内容の充実及び品目の追加などを行い拡販していく。

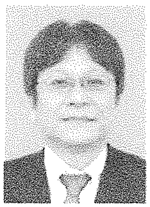
⑦各加盟店への情報発信とともに活用できる仕組みの構築を目指していく。

⑧自動車リサイクル法の厳格な運用とリサイクル部品の円滑な流通の仕組み及び各種政策を希望します。

エコライン　今原　克典代表取締役

サイトでの部品発注好調

その場で検索でき顧客に満足感



①リサイクル部品の流通量はいまだ好調を保っている。その要因として中古車流通事業者2社と今年6月に業務提携し、リサイクル部品購入サイト「リパーツダイレクトシステム（RDS）」による部品発注を可能にしたことがあげられる。同システムは仕入をしながら修理用のリサイクルパーツもあわせて購入できるメリットを持たせた。パソコンの画面上でリサイクル部品の購入ができることで、エコラインは部品流通の拡大が図れる。その場で中古パーツを検索でき、顧客に満足感を与えられる。AA会場には整備事業者や板金塗装業者も会員になっており、直接販売できることが利点だ。また来年5月からエコラインパーツシステム（EPS）の操作性、スピードアップなどを図る。視覚に訴える情報をこれまでより見やすくし、照会画面など使いやすくする。

②来年も好調を維持するためには次の一手を考えていかなければならない。国内外を含め個人消費者に販売する手段を考えていく。海外ではパートナーを組んで個人消費者向けに販売を開始した。

③加盟店が良質な中古パーツを生産しており、製品化したパーツは100%販売していく努力を続けていく。使用済み自動車の入庫状況は下取りの車の発生が少なく厳しいが、各社入庫確保にがんばってもらっている。

④品質基準の統一化に向けて対応を進めている。もともと加盟店の品質は高いが、来年2月に加盟店向けの勉強会を開催する予定で、さらなる品質アップを図っていく。

⑤ハイブリッド・カーのバッテリーなど、大手自動車メーカーがイニシアチブを取ってリサイクルできる仕組み作りをしていくことが大切だと思う。レアメタルやレアアースの回収は重要なことで、都市鉱山から効率よくリサイクルできるシステムを考えていく必要がある。

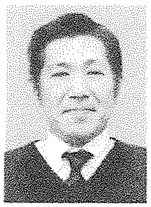
⑦検討しているのがアウトレット部品の販売だ。日本で流通する中古パーツは品質が良い。しかし海外では機能としては十分使えるがより安いパーツが好まれる。日本よりワンランク下の商品を作る新しい取り組みを始めてみたい。

⑧日本ELVリサイクル機構や日本自動車リサイクル部品協議会が中心となり、業界が一つになって行くことが望ましい。

SPN　北島　宗尚社長

原点回帰で顧客営業推進

東北地方での推移注視



①1～11月の前年対比で生産、売り上げ共に伸びている。部品生産を手掛ける会員が6社増えて64社になったのが大きな要因。販売だけ行う会員を含めて組織全体では約80社となる。SPNは東北地方のメンバーが多く、来年の見通しは東北地方の各社の入庫状況に大きく左右されるだろう。震災以降、中古車が東北地方に数多く集まっており、今後の推移を注視していく。

②約470アイテムだった商品カテゴリーを530アイテムに広げ、登録できる部品が増えた。また、ヤフーへの自動出品機能などシステムも充実。会員の利便性向上に努め、各社の作業経費削減につなげている。

③組織としての入庫策は現在手掛けていないが、今後また検討したい。ひとつは車両事業を展開しているスーパーライン東北の営業活動拡大。会員全体では、修理工場との結び付きを強化するためのサポートを準備している。原点に帰って地域の修理工場からクルマを出してもらい、会員は適正処理しリサイクル部品を供給するという元々の流れを重視。顧客営業の推進を、各社の実務者リーダー経由で全社に再徹底していく。

④品質活動はかねて継続して行っている。統一保証についてはSPN会員はじめ適正事業者が生産するリサイクル部品のブランドとしてアピールしたい。さまざまなリサイクル部品の中で差別化につながる。

⑤レアメタルを含むマテリアルリサイクルの共同出荷を事業として実施。東日本自動車解体処理協同組合とタイアップした活動も行っている。

⑥リサイクル部品のインターネットサイト「RECOジャパン」を通し、普及促進を図ってきた。RECOジャパンは月間百数十万ビューのアクセスがあり、部品販売も伸びている。顧客が在庫の中から選ぶネット系、顧客の注文をネットワークから探す従来からの受注系でそれぞれのニーズの違いなどを分析し、今後の展開に生かしたい。

⑦ビッグウェーブ、エコラインとの連携強化。そしてSPNグループ各社の実績をいかに伸ばしていくかがテーマで、来年は経営者と実務者を対象に、マーケティング研修を6回開催する計画。

⑧自動車リサイクル法に基づく許可のある解体事業者は行政の指導に合わせて努力している。しかし、アンダーグラウンドでの使用済み車取引も依然なくならない。環境対策に配慮した設備で解体する許可事業者はコスト高になり、アウトサイダーに対しての競争力を失う。不適正な事業者の指導をお願いしたい。

質問項目

①自動車リサイクル部品の生産、売り上げの状況と今後の見通し
②リサイクル部品市場拡大に向けたグループの活動（今後の計画も含む）
③使用済み自動車の入庫が厳しい中での対応（確保策など）
④品質保証に伴う取り組み
⑤マテリアルリサイクルの重要性（レアメタル・レアアースも含む）
⑥取引先企業、エンドユーザーへのPR展開について
⑦いま、グループとして注力していきたいこと
⑧行政などへの要望

自動車リサイクル部品の活用は
未来の地球環境を明るく照らし続けます。
「自動車リサイクル部品」
のネットワークです。

〈株式会社エコライン〉と〈株式会社ビッグウェーブ〉、〈株式会社SPN〉は
協調し合い常に最高品質の自動車リサイクル部品の生産と販売に
取り組んでいます。

株式会社 エコライン
〒453-0834
愛知県名古屋市中村区豊国通1丁目20-3 ダニーランドビル4F
TEL 052-419-1901

株式会社 ビッグウェーブ
〒497-0005
愛知県あま市七宝町伊福前治郎前56
TEL 052-441-7502

株式会社 SPN
〒103-0027
東京都中央区日本橋1-2-2 銀和ビル7F
TEL 03-3548-3010